

## 2016年度 日本臨床検査医学会 第3回 理事会（理事総会） 議事録

日時：2016年8月20日（土）13：30～16：30

場所：日本臨床検査医学会 事務所

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸 副理事長、村上正巳 総務理事、諏訪部 章 会計理事、東條尚子 庶務理事、前川真人、小柴賢洋、宮地勇人、〆谷直人（自動化学会連絡委員兼務）、木村 聡、戸塚 実、柴田綾子、下 正宗、清水 力、賀来満夫、本田孝行、石井潤一、通山 薫、岡山昭彦 各理事  
尾崎由基男、高木 康（JCCLS 連絡委員兼務） 各監事  
水口國雄 同学院連絡委員、三宅一徳 専門医会連絡委員（23名）

欠席：一山 智 理事（1名）

会に先立ち、2016年5月14日に逝去された名誉会員の川出眞坂先生（享年91歳）を悼み黙禱が行われた。その後、矢富裕理事長から挨拶があり、〆谷直人理事、賀来満夫理事を議事録署名人に定めて議事を進めた。

### I 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部報告の2016～2017年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

#### 2. 関連団体報告

##### 1) 日本臨床検査同学院（水口國雄 同学院 理事長）

平成27～28年度各種認定試験、緒方富雄賞授賞式及び記念講演会、部会活動（実技講習会）、編集事業、関連団体との会合、（一社）日本遺伝子分析科学同学院の研修会及び試験結果、平成28年度事業計画等について報告された。

##### 2) 日本臨床検査専門医会（三宅一徳 臨床検査専門医会 庶務・会計担当）

会員動向、平成28・29年度役員、平成28年度の総会、全国幹事会、常任幹事会、出版物、教育・研修活動、広報・渉外活動予定、本年3月25～26日（土～日）、高知市で杉浦哲朗会長のもと開催された第6回生涯教育講演会（86名参加）、第27回春季大会、第27、28回（平成29、30年度）春季大会は、〆谷直人先生（国際医療福祉大学熱海病院）、本田孝行先生（信州大学）がそれぞれの大会長として決定したこと、3月に専門分野別ネットワークシステムが運用開始したこと等が報告された。

##### 3) 日本臨床検査標準協議会（高木康 JCCLS 会長）

平成27年度の会員の移動、常任理事会・理事会・総会での報告及び協議内容、8月28日（金）開催のJCCLSシンポジウム（テーマ）「世界の標準物質の現状と将来について」（一般参加者91名）、三菱総合研究所委託事業、平成27年度政府戦略分野に係る国際標準化活動「テーマ：パネル血清及び測定前プロセス等に関する国際標準化」、平成27年度収支計算書等について報告された。

##### 4) 日本臨床検査自動化学会（〆谷直人 臨床検査自動化学会 理事）

2016年9月22～24日（木～土）、パシフィコ横浜で康東天会長のもと第48回大会が、2017年4月22日（土）、ビックハート出雲にて第31回春季セミナーが開催予定であることが報告された。

#### 3. 各種委員会報告

##### 1) 倫理委員会（諏訪部章 担当理事）

5月16日に開催された日本医学会第2回研究倫理教育研修会に委員長が出席した。医学雑誌に関してオーサーシップの厳格化、奨学寄附金制度の縮小に伴い製薬協の表明により研究支援金制度が導入される方向であること、第63回学術集會中（9/3）に委員会を開催し、既存資料の取り扱いガイドラインに関して協議予定であることが報告された。

##### 2) 広報委員会報告（木村 聡 担当理事、小柴賢洋 委員長）

HP 改訂作業は案が確定し、アップにむけ作業中であること、第 63 回学術集會中に臨床検査専門医会広報委員会、新専門医制度広報アドホック委員会、ワークライフバランス委員会と合同委員会を開催予定であることが報告された。

### 3) 国際委員会報告 (村上正巳 担当理事、石井潤一 委員長)

持ち回り理事会で承認された 2016 年度国際学会奨励賞受賞者 3 名が報告された。

### 4) 会則改定委員会報告 (谷直人 担当理事、東條尚子 委員長)

定款ならびに細則により、評議員を定年退任した監事は、功労会員への推薦が可能である。しかし、監事在任中は本会執行部として業務を遂行することが優先されるため、評議員退任後の会員種別は正会員であるべきと理事会で承認されていた。本件について委員会で協議し、細則附則に、「監事任期中は功労会員の推薦対象とならない。」を追記する案が報告され、承認された。

### 5) 試験委員会・試験実行委員会報告 (宮地勇人 試験委員会 委員長)

7 月 23 日 (土) ~ 24 日 (日) に実施された臨床検査専門医試験の合否判定会議を 7 月 24 日に開催した。試験委員会からの講評、各科目の総括を行い、合否判定基準に基づき個別の合否について検討し最終判定を行ったことが報告された。

### 4. 第 63 回学術集會報告 (神戸 2016/9/1(木)~9/4(日)) (小柴賢洋 会長)

2016 年 9 月 1 日 (木) ~ 4 日 (日)、神戸国際会議場において、メインテーマ「Challenge」(医学検査学会と共通)、サブテーマ「臨床検査の連携・協働」として、第 65 回日本医学検査学会、IFBLS2016 (第 32 回世界医学検査学会)、第 11 回日本臨床検査学教育学会と同時開催する。

今回、抄録は、医学検査学会との合同開催により冊子体では 3 倍の厚さとなるため、CD-R 版での抄録集となった。また、Web 版では、各自で参加するセッションをピックアップする便利な機能などあること等が報告された。

### 5. 第 64 回学術集會報告 (京都 2017/11/14(木)~19(日)) (村上正巳 会長)

国立京都国際会館 (京都) において、2017 年 11 月 16 日 (木) ~ 11 月 19 日 (日) に、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」(Contribution to Medical Innovation of the Next-Generation) として第 64 回学術集會を、11 月 14 日 (火) ~ 11 月 17 日 (金) に第 29 回世界病理学・臨床検査医学会連合会議 (The 29th World Congress of World Association of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)) を合同会議として開催予定である。

合同会議であるため、準備の都合上、小柴会長の承諾を得たうえで、第 63 回学術集會終了前から理事、委員会、関連団体に、プログラム、企画等についてアンケート、提案依頼を行う予定であること、組織委員会委員名簿が報告された。

### 6. 2016 年度臨床検査専門医認定試験結果・会計報告について (東京 2016/07/23(土)~7/24(日)) (矢富 裕 理事長)

7 月 23 日 (土) ~ 24 日 (日)、杏林大学医学部で渡邊卓試験実行委員長のもと実施された。

受験者 32 名 (新規: 29 名、科目再受験: 2 名 (内 1 名欠席)、全科目再受験: 1 名) で、合格者 27 名 (新規: 25 名、科目再受験: 1 名、全科目再受験: 1 名)、不合格者 4 名であった。不合格者は、次年度以降受験の場合は、合否判定基準により再受験 (全科目受験) となることが報告された。

#### 会計報告:

今回、実技試験のための機器を購入したため、22 万円程度不足となった。これは次年度以降も使用可能であり、それ以外は例年より少ない経費で済んでいることが報告された。

### 7. 第 66 回 (平成 31 年度: 2019 年)、第 67 回 (平成 32 年度: 2020 年) 学術集會長について (矢富 裕 理事長)

事務的効率化、経費的縮小等なことより運営会社を 2018 年から 3 年間固定し、また、2020 年には東京オリンピックが開催されるため会場を確保するのが望ましいため 2019 年度、2020 年度までの学術集會長を決定すること、当会長は、中国・四国支部から推薦された通山薫先生、東北支部から推薦された諏訪部章先生が前理事会で選出されていたが、それぞれ、2019 年度、2020 年度を担当することが報告された。

## 8. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（矢富 裕 理事長）

前回、理事会 6 月 11 日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

### 1) 2016/7/4 臨床検査振興協議会 診療報酬委員会メンバー

診療報酬改定小委員会委員：米山彰子先生（虎の門病院）、古川泰司先生（帝京大学）

診療報酬制度小委員会：村上正巳先生（群馬大学）

### 2) 2016/7/22 日本医療情報学会と日本糖尿病学会の「糖尿病医療の情報化に関する合同委員会」6 臨床学会拡大会議派遣委員（日本医療情報学会、日本糖尿病学会、日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、日本腎臓学会日本臨床検査医学会）：康 東天先生（九州大）

### 3) 2016/7/14 福「診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2008」改訂版共同作成委員 飯沼由嗣先生（金沢医科大学）

### 4) 2016/8/04 日臨技 認定心電検査技師制度試験 WG 委員、審議会委員\*（任期：2016/7/1～2018/6 定時総会） 古川泰司\*先生、本間正\*先生、石井潤一先生、中山智祥先生、横山直之先生（\*は両委員）

## 9. 「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」アンケートについて（矢富 裕 理事長）

「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」は、2019 年 4 月 27 日（土）～29（月祝）、名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）において、齋藤英彦会長（名古屋大学名誉教授）のもと開催される予定であるが、学術プログラムに関するアンケートがあり、3 テーマを提案したことが報告された。テーマが採用されるよう東海・北陸支部からの働きかけの協力依頼がされた。

## 10. その他

特になし。

## Ⅲ 審議事項

### 1. 2016 年度補正予算案・2016 年度中間実績報告・2017 年度予算案について（諏訪部章 会計理事）

2016 年度補正予算案、2016 年度中間実績、2017 年度予算案が提示され、諏訪部章会計理事より、昨年との比較により増減がある項目について以下の説明があり、承認された。

#### ○2016 年度補正予算案

（一般会計；収入）

・増額した項目：賛助会費は 2015 年度決算に合わせた。専門医受験料は実績に合わせた。新専門医制度関連の項目を設けた。検査診断事典は実績に合わせた。

・減額した項目：外販は 2015 年度実績に合わせた。

・新設項目：新専門医制度関連

（一般会計；支出）

・増額した項目：機関紙発行は 2015 年度決算に合わせた。会議費は中間実績合わせた。専門医認定試験費用は実績に合わせた。給与手当、法定福利費、退職金掛金は事務職員 1 名増員のため。

・減額した項目：各種委員会活動費、旅費交通費、通信費、事務用品・印刷・リース費、事務所諸経費、備品代、水道光熱費。

・新設項目：国際学会参加補助金、新専門医制度関連

（特別会計；支出）

・4 月 14 日に熊本地震が発生したことにより 500 万円を上限とした対策費用等を予算立てした。

・日本専門医機構より運営資金の借入れ要請があったため 300 万円を上限として貸付可能とした。

#### ○2017 年度予算案

例年同様に立ててあるのに加え、事務局員増員のための費用を捻出した。2016年度補正予算と同様、国際学会参加補助金、新専門医制度関連の収支を追加した。

## 2. 2016年度中間事業報告について（東條尚子 庶務理事）

2016年度中間の事業報告がなされ、承認された。

## 3. 2017年度事業計画（案）について（東條尚子 庶務理事）

2017年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

## 4. 2017年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（矢富 裕 理事長）

功労会員、評議員の推薦について、資格要件が確認され、以下の通り、功労会員、評議員として承認された。

1) 功労会員として関東・甲信越支部から川杉和夫先生、東 克巳先生、細萱茂実先生の3名、東海・北陸支部から竹村正男先生、野島孝之先生の2名、九州支部から津田博子先生1名、合計6名。

2) 評議員として、東北支部から志村浩己先生、廣川 誠先生の2名、関東・甲信越支部から石井直仁先生、上原 剛先生、長田 誠先生、萩原三千男先生、平山 哲先生、増田亜希子先生の6名、東海・北陸支部から木村秀樹先生1名、近畿支部から正木 充先生1名、九州支部から竹内正明先生、前田士郎先生、松井啓隆先生の3名、合計13名。

## 5. 評議員（社員）再任予定者（2017/01/01）について（矢富 裕 理事長）

2017年1月1日付評議員再任予定者52名が提示された。再任手続きは、12月下旬の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、今回の理事会、9月1日の臨時社員総会の承認を得ておきたい。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となる。

2017年1月1日付の評議員再任予定者52名について承認された。

## 6. 平成28-29年度学術推進プロジェクト研究採択課題審査結果について（前川真人 学術推進化委員会担当理事、矢富 裕 理事長）

平成28・29年度学術推進プロジェクト研究課題として申請された12課題（この内科学研究費に採択された1課題は候補から外した。）について、学術推進化委員会において、研究計画の獨創性・先進性、研究計画の実効性・妥当性、臨床検査医学・医療における発展性・将来性について委員による採点を行い、平均点、コメント、その他の情報を参考として最終選考を行った。その結果、以下の採択課題、助成金額が提示され、承認された。ただし、臨床検査技師を代表研究者とする課題が減少したため、何らかの方策を考慮することとなった。

### 1) 宇野直輝氏（長崎大学）

「細胞内DNAを検出する高感度フローサイトメトリーアッセイの開発」助成額：200万円／2年

### 2) 蔵野信氏（東京大学）

「ガスクロマトグラフィ質量分析計を用いた疾患進行予知マーカーの探索」助成額：100万円／2年

### 3) 齋藤紀先氏（弘前大学）

「赤血球中MCP-1濃度と動脈硬化の関連に関する研究」助成額：100万円／2年

### 4) 山中勝正氏（浜松医科大学）

「慢性気管支喘息の急性増悪の予知・予防法 気道生体防御の管理法の開発」助成額：100万円／2年

## 7. 功労会員3年以上の会費未納者の扱いについて（矢富 裕 理事長）

会員細則では、3年以上の会費未納者は退会事由となるが、3年以上会費未納の功労会員（約15名）の扱いについて協議され、本人からの退会意向がない限り終身功労会員として名前は残すが、功労会員としての権利は有さないこととなった。

## 8. 2016年度国際学会参加補助金の受賞候補者について（国際委員会 村上正巳担当理事、矢富裕理事長）

6月11日の第2回理事会で設置が承認されていた国際学会参加補助金制度について、2015年度に海外で開催された臨床検査医学に関する国際学会（WASPALM、ASCPALM）において、招請講演、教育講演、シンポジウムまた

はワークショップで発表を行った者で他の学会参加補助金を受けていない者として、国際委員会において以下1名を2016年度国際学会参加補助金(10万円)受賞者と決定したことが報告され、承認された。

坂本秀生氏(神戸常盤大学)

発表学会: WASPaLM(2015年11月15日~11月21日、Cancun, Mexico)

発表形式: シンポジウム

演題名: POCT is strong devices at the disaster relief activity. Experience from the laboratory medicine support after the Great East Japan Earthquake

#### 9. 専門医制度関連事項について(臨床検査領域代表、専門医担当 山田俊幸副理事長)

##### 1) 日本専門医機構新体制の現況(機構第4回理事会報告)

日本専門医機構は役員が交代となり、従来の方針が見直され、再検討後、2018年度に新しい制度の開始を目指すことについて、各学会に理解が求められた。

##### 2) 本学会の対応

機構の方針を受け、新制度による研修は2017年度開始を見送り、2018年度開始を目指す。2017年度についてはこれまでどおり各施設の募集として、現制度で研修中の専攻医を含め、研修登録票の提出を徹底することとした。そして、今後は、以下のように進めていく予定となった。

- ・一次審査で認定された研修プログラムは、マイナーチェンジしてもらうにとどめる。
- ・セカンドキャリア用モデルプログラムを策定し、機構と摺合せを行う。
- ・サブスペシャルティ学会の検討を行う。
- ・更新は、2016年度からの機構専門医による更新を見送り、しばらくは学会の専門医更新とする。

##### 3) 機構専門医用に取得した単位を当面の間、学会専門医用の単位に適用可能とする件

昨年からは開始した機構専門医更新のための講習会での取得単位については、学会専門医の更新単位として、同単位数で認めることについて検討し、承認された。

#### 10. 臨床検査室グローバルニュースについて(矢富 裕 理事長)

6月30日に、常任理事3名、精度管理委員会担当理事及び委員長、CGIよりCEO、社長の2名が出席して、臨床病理送付時に同梱している臨床検査室グローバルニュースについての内容、送付について協議された。

当会より、学会誌に同梱する冊子としての内容としては不适当のため、同梱中止を申し入れたが、CGI社はグローバルニュースの発刊のため広告契約を取り交わしており、また、原稿の執筆依頼などしており、急な同梱中止は困難とのことであった。

ただ、CGI社は、当会危惧を理解し昨今の宣伝色の強さを反省し、次号以降は、CGI社の広告は一切除き、著者所属を明記、当会精度管理委員会の関与をより前面に出したものとし、事前に、精度管理委員会と常任理事の確認を得ることを約束した。そして、同梱される際、同封されるカバーレターに関しては、精度管理委員会を発信元にする事も承諾したことが報告され、同梱することについて承認された。

今後も、CGI社がグローバルニュースを自社の宣伝媒体としないことを確認していくこととなった。

#### 11. ホームページ関連事項について(矢富 裕 理事長)

当会のHPリニューアルについては、現在、常任理事、広報委員会、依頼業者による更新作業が行われており、間もなくアップできる予定であることが報告された。

今後のHPの管理担当として、広報委員会にHP部会を設置すること、委員としては増田亜希子先生(東京大)、千葉泰彦先生(横浜市立市民病院)の2名が提案され、承認された。

#### 12. 企業バナー広告について(矢富 裕 理事長、諏訪部章 会計担当)

リニューアルされたHPへのバナー広告を掲載すること、賛助会員か否かで価格に差をつけた募集案が提案された。価格の再検討の意見があったが掲載募集は承認された。掲載料については常任理事会に一任された。

また、理事へバナー広告の募集協力依頼がされた。

#### 13. 2016年度に係る定時社員総会について(矢富 裕 理事長)

2016年度に係る定時社員総会については、多くの評議員に出席いただく機会であるので、開催に合わせて講演会を開催する提案があった。2017年3月26日(日)、東京大学鉄門講堂を会場とし、講演者は、参議院議員で日本臨床衛生検査技師会の宮島喜文会会長、日本臨床検査専門医会の登勉会長に依頼する案、そして、社員総会では委員会活動報告を委員長(担当理事)によりスライド等を使用した報告とし充実させたいと提案があり、承認された。

#### 14. 評議員の責務について(矢富 裕 理事長)

臨床検査専門医認定試験での実行委員会委員選定の際に実行委員選定、臨床病理での査読委員について苦渋することがあるため、評議員の責務として協力いただくべきとの提案があり、承認された。

実際には、名簿作成の際に、各自の専門領域欄を設けて、試験実行委員会委員や査読委員選出時に参考とすることとなった。

#### 15. CBT 試験と医師国家試験における単位についての厚労省への要望書提出について(矢富 裕 理事長)

CBT 試験、医師国家試験問題における検査値単位に誤りがあることが報告され、当会から厚労省に要望書を提出することが提案され、承認された。

#### 16. 日本専門医機構からの借り入れ調査依頼、事務局員支援について(矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長)

運営資金借入の調査依頼があったことについて協議され、社員として協力することとなり、300万円を限度に貸出可とすることが承認された。

事務局職員の支援要請については、現時点、当会でも手が足りていない状況であるため不可となった。

#### 17. JCCLS フローサイトメトリーによるCD34 陽性細胞検出に関するガイドラインについて(矢富 裕 理事長)

JCCLSのFCMによるCD34陽性細胞検出ガイドライン委員会が作成した「フローサイトメトリーによるCD34陽性細胞検出に関するガイドライン(JCCLS H3-P V2.0)(暫定文書)」について、特に、造血幹細胞移植に関する検討依頼があったことが報告され、ガイドライン作成委員会で検討することとなった。

#### 18. その他(東條尚子 庶務理事)

次回以降の理事会、定時社員総会日程が報告された。

2016年度第4回理事会：2016年12月24日(土) 13:30~16:30の予定

2017年度第1回理事会、2016年度に係る定時社員総会：2017年3月26日(日)

#### V 閉会の挨拶(山田 俊幸 副理事長)

山田俊幸副理事長より、閉会の言葉があり、本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

谷 直人 

賀来 満夫 